ニューヨーク補習授業校だより

平成２７年度６月号
校 長　青木　正彦





W校中高等部

５月

白熱の球技大会

伝統の球技大会は、例年に無い白熱した試合展開となりました。バスケットは一進一退を繰り返す。バレーはラリーの応酬が続く、サッカーは、お家芸の全員サッカー。一投一投を大事にするドッヂボール。だれもが熱心にボールを追う姿に、何度も拍手を送りました。

何より感動したのは、一投を大事にするがゆえに、パスを回していたことでした。このパスは、自分の仲間を信じていないとできません。



チームは異年齢の縦割りです。それなのに、上級生下級生関係なく、パスを回す。そうなると、いつパスが来てもいいように、全員が集中するし、状況についても、さらによい位置でパスを受けようと全員が動くことになります。一人ひとりの存在が大きくなります。皆が生き生きとして、積極的になります。

シュートや打点が決まると、誰が決めたかよりも、皆のパスが繋がったという印象になります。双方のチームがまとまるので、大接戦となりました。

国内で私も何度も球技大会を見てきましたが、縦割りのチームは初めてです。審判をしてくれた卒業生の一人も話してくれましたが、「現地校でも、縦割りは無く、学ぶところが大きいですね。」

縦割りなら、いつもこのようになるわけではありません。生徒たちの互いの力を引き出し合う素晴らしさは、培われた土壌の上に積み上げられた成果なのでしょう。

ボランティアの保護者、卒業生の皆様、ご協力ありがとうございました。今年も誇りある伝統は生きています。





第17回LI校運動会

6月

伝統の大運動会！



「スポーツの語源が“日常の生活から離れて、楽しむ”ということなら、今日は思いっきり楽しんでほしい。」と児童生徒に挨拶しました。晴天の下、幼児部・初等部・中等部・高等部の児童生徒全員が参加する大運動会が行われました。

「走れde綱取り」では、仲間が来るのを信じて、ひきずられても綱から手を離さない。「リレー」では、半周以上離されていても、歯を食いしばって必死に走り続けるなど、見ているこちらの胸が熱くなる場面が何度もありました。



親子での競技、先輩との競技で、心温まる場面もありました。何より競技に参加する児童生徒のけん命さに、感動しました。

僅差で赤組が勝ちましたが、会場全体からは、共に全力を尽くした児童・生徒全員に向けて、大きな拍手が送られました。

運動会は学習指導要領にもある日本独特の体育的行事ですが、ニューヨークの地にあっても、実現できていることに、実は正直、驚きました。しかも、幼児部から高等部までの大運動会は、国内にもない規模で、通常のレベルをはるかに超えています。

さらに、運動会は学校行事の中でも、最も準備と運営に人手が必要です。国内では、PTAの委員会や保護者ボランティアに協力を要請しています。しかし、本運動会は、学校と生徒会と保護者会の共催となっています。保護者が協力、応援をするのではなく、学校、生徒会、保護者、卒業生が、一緒になって運動会をつくり上げているのです。今までにない初めての経験に、大変感動しました。





今年の運動会は、17回目です。保護者の皆様の準備から運営は、実に組織的でした。また永く続けてきた不断の努力の跡を、随所に見ることができました。まさに伝統の大運動会でした。